

市政トピックス



がんばる地域おこし支援事業 公開プレゼン大会

地域が輝くには人づくりが欠かせません。この拠点と期待されているのが交流センターです。同センターが、地域のみなさんとともに課題を掘り下げ、解決していく活動を応援する「がんばる地域おこし支援事業」(主催：市交流センター連絡協議会)の企画プレゼンテーション大会が5月26日、伯太中央交流センターで開催されました。

母里交流センターから提案がありました。このうち赤江交流センターは、「人口は増えているが新興住宅地が多い。地域力の強化が必要」と課題を設定。「地域全体で子どもを育む取り組みを進め、これに地域の大人たちも積極的にかわる仕組みの構築を目指す」と、6人の審査員を前に提案。全学年を対象にした田植えや料理教室などの活動と併行して地域ボランティアの育成という計画を発表しました。

また、十神交流センターは「世帯を超えた子育て支援」を、母里交流センターは「地域ビジョン構築のための再発見」をそれぞれ提案しました。

審査委員長を務めた市社会教育委員梅林益美さんは「今回の提案を聴いて交流センターの熱意が感じられる」と話していました。

三つの計画は、審査員からのアドバイスを取り込んで事業化。年間を通じて取り組まれ、それぞれの地域を元気にしていきます。



安田地区農地整備事業 57.4haのほ場を整備

伯太地域で初めての大規模なほ場整備となる安田地区農地整備事業(県営)の起工式が、5月17日に行われました。総事業費は約18億円、工事面積は57.4haになります。

同地区は、昭和20年代に整備された12haの区画がほとんどで、完成すると1ha区画の農地に換わります。84戸の農家による営農組織で管理することになり、大型機械の導入により経営の効率化にもつながります。

同事業推進協議会の宮本重徳会長は「おいしいお米と特産品アスパラを作り、地域の食文化に寄与したい」と話していました。

▼左から安来十神ライオンズクラブ村田有史会長と森脇光成副市長、丸本到安来警察署長。



駐輪場に防犯カメラ

安来十神ライオンズクラブから防犯カメラの寄贈を受け、このほどJR安来駅前駐輪場に設置しました。多くの電車通学・通勤者が利用する駐輪場は、出入口が複数あるため死角が多く、自転車の盗難防止や駐輪場での危険犯罪を未然に防ぐ効果が期待されています。

5月24日に現地で行われた運用開始式には関係者約10人が出席。位置の確認とともに、録画された画像を視認しました。

熊本地震で 被災された方の 総合相談窓口

定住企画課
電話 0854-23-3060

住まいの支援(市営住宅の提供)や各種減免制度を設けています。

